

環境問題

ゴミ袋の改良について

当面はU字型で対応
／住民課長

問

ごみ袋が従来の封筒型からU字型に改良され、多くの住民が大変便利になったと喜んでい。U字型に改良する事によるコストはいくらアップしたか。本来袋はまち付きが便利だが、コストとの兼ね合いもあるので検討を願いたい。

一括購入の保管場所の倉庫の件はどうなったか。また、袋の製造は国内か中国か、その理由は何か。

答

米津 住民課長

本町では平成21年度から封筒型からU字型に改良した。コスト面では全体で約40万円の増と思われる。まち付きはコストの問題もあり、当面現状の型で行きたい。

倉庫は建築経費の問題もあり、現状のまま対処したい。21年度のごみ袋は中国製で、日本製にすると、業者見積もりで約倍近い価格になる。



かどた にわこ
門田 仁和子 議員



予防医療

新インフルエンザ 予防に助成を

助成拡大は
今後の課題／町長

問

新型インフルエンザが本格的な流行期に入っている。感染拡大防止のため、ワクチン接種も始まっている。優先順位に従って重症化のリスクの高い基礎疾患（持病）のある人や、妊婦への接種が行なわれている。費用は1回目が3600円、2回目が2550円、合計6150円。

欧米主要国ではワクチン接種が原則無料化されている。各自自治体も予防接種の助成を拡大している。現在負担軽減対象者を、生活保護世帯及び町民税非課税世帯だけでなく、妊婦や基礎疾患のある人や小児など優先接種の対象者をたためらう事がないよう、接種費用を無料または一部助成するなど、公的補助の対象を

広げるべきだと思いが、町としての取り組みを問う。

答

下村 町長

矢野 大方健康福祉課長

本町では9月下旬に感染が確認され、11月から本格的な流行期に入り、中学生以下児童生徒でこれまで330人の感染が確認された。

接種費用については、優先接種対象者の内、生活保護世帯及び町民税非課税世帯の方は全額免除としている。その他の助成については、幡多郡近隣市町村と歩調を合わせようなどところもあるので、今後検討をしていきたい。

医療

ジェネリック医薬品の普及拡大を 普及啓発に取り組む ／大方健康福祉課長

問

ジェネリック医薬品とは「後

発医薬品」の事で、新薬の特許が切れた後に販売される同じ有効成分、効能の医薬品の事。効き目や安全性は新薬と同じで、新薬より安価で経済的である。ジェネリック医薬品を使用する事で、患者の医療費負担の軽減と共に、国民医療費の抑制にもなる。

しかし、患者は医師（薬局）にジェネリック医薬品処方希望を口頭で伝えなければならず、実際には言い出しにくい。国民健康保険の全加入者に対し、保険証更新時に併せて「後発医薬品（ジェネリック医薬品）お願いカード」を作成、送付し、同医薬品の普及啓発に努めるべきと思うが、町の今後の取り組みについて問う。

答

矢野 大方健康福祉課長

黒潮町では今年7月に21年度の国民健康保険の納付書を送付する際にパンフレットを配布し、利用促進に努めている。今後広報等を通じ周知徹底をはかっていきたい。